

## 令和八年度一般選抜A日程国語 問題

第一問 次の文章は、夏目漱石の「変な音」である。これを読み、後の問いに答えなさい。

上

1 うとうとしたと思ううちに眼が覚めた。すると、隣の部屋で妙な音がする。始めは何の音ともまたどこから来るともはっきりした見当がつかなかったが、聞いているうちに、だんだん耳の中へまとまった観念ができてきた。何でも山葵わさびおろしで大根かなにかをこそごそ擦っているに違ない。自分は確かにそうだと思った。それにしても今頃何の必要があって、隣の部屋で大根おろしを拵こしらえているのだから想像がつかない。

2 いい忘れたがここは病院である。賄まかないは遙か半町も離れた二階下の台所に行かなければ一人もいない。病室では炊事割烹かっぱアは無論菓子さえ禁じられている。まして時ならぬ今時いまじぶん分何しに大根おろしを拵えよう。これはきつと別の音が大根おろしのように自分に聞えるのにきまっていると、すぐ心のうちで覚ったようなものの、さてそれならはたしてどこからどうして出るのだろうかと考えるとやっぱり分らない。

3 自分は分らないなりにして、もう少し意味のある事に自分の頭を使おうと試みた。けれども一度耳についたこの不可思議な音は、それが続いて自分の鼓膜イに訴える限り、妙に神経に祟って、どうしても忘れる訳に行かなかった。あたりはしんとして静かである。この棟に不自由な身を託した患者は申し合せたように黙っている。寝ているのか、考えているのか話をするものは一人もない。廊下を歩く看護婦の上草履の音さえ聞えない。その中にこのごしごしと物を擦り減らすような異な響だけが気になった。

4 自分の部屋はもと特等として二間つづきに作られたのを病院の都合で一つずつに分けたものだから、火鉢などの置いてある副室の方は、普通の壁が隣の境になっているが、寢床の敷いてある六畳の方になると、東側に六尺の袋戸棚ふくろとだながあって、その傍わきが芭蕉布ばしやうふの襖ふすまですぐ隣へ往来ができるようになっていた。この一枚の仕切をがらりと開けさえすれば、隣室で何をしているかはたやすく分るけれども、他人に対してそれほどの無礼をあえてするほど大事な音でないのは無論である。折(1)からアツさに向う時節であったから縁側は常に明け放したままであった。縁側は固もとより棟いっばい細長く続いている。けれども患者が

縁端へ出て互を見透す不都合を避けるため、わざと二部屋毎に開き戸を設けて御互の関とした。それは板の上へ細い棧を十文字に渡した洒落たもので、小使が毎朝拭掃除をするときには、下から鍵を持って来て、一々この戸を開けて行くのが例になっていた。自分は立って敷居の上に立った。かの音はこの妻戸のうしろから出るようである。戸の下は二寸ほど空いていたがそこには何も見えなかった。

5 この音はその後もよく繰返えされた。ある時は五、六分続いて自分の聴神経を刺激する事もあったし、またある時はその半ばにも至らないでぱたりとやんでしまう折もあった。けれどもその何であるかは、ついに知る機会なく過ぎた。病人は静かな男であったが、折々夜中に看護婦を小さい声で起していた。看護婦がまた殊勝な女で小さい声で一度か二度呼ばれると快よい優しい「はい」と云う受け答えをして、すぐ起きた。そうして患者のために何かしている様子であった。

6 ある日回診の番が隣へ廻ってきたとき、いつもよりはだいぶ手間がかかると思っている、やがて低い話し声が聞え出した。それが二、三人で持ち合ってなかなか抄取らないような湿り気を帯びていた。やがて医者の方で、どうせ、そう急には御癒りにはなりませんいからと云った言葉だけがはっきり聞えた。それから二、三日して、かの患者の部屋にこそ出入りする人の気色がしたが、いづれも己れの活動する立居を病人にエンリヨするように、ひそやかにふるまっていたと思つたら、病人自身も影のごとくいつの間にかどこかへ行ってしまった。そうしてその後へはすぐ翌る日から新しい患者が入って、入口の柱に白く名前を書いた黒塗の札が懸易えられた。例のごしごし云う妙な音はとうとう見極める事ができないうちに病人は退院してしまつたのである。 A 自分も退院した。そうして、かの音に対する ウー 好奇の念はそれぎり消えてしまつた。

下

7 三カ月ばかりして自分はまた同じ病院に入った。部屋は前のと番号が一つ違うだけで、つまりその西隣であった。壁一重隔てた昔の住居には誰がいるのだろうかと思つて注意して見ると、<sup>(3)</sup> シュウジツかたりと云う音もしない。空いていたのである。もう一つ先がすなわち例の異様の音の出た所であるが、ここには今誰がいるのだから分らなかった。自分はその後受けた身体の変化のあまり劇しいのと、その劇しさが頭に映つて、この間からの過去の影に与

えられた動揺が、絶えず現在に向って **エ** 波紋を伝えるので、山葵おろしの事などはほとんど  
思い出す暇もなかった。それよりはむしろ自分に近い運命を持った在院の患者の経過の方  
が気にかかった。看護婦に一等の病人は何人いるのかと聞くと、三人だけだと答えた。重い  
のかと聞くと重そうですと云う。それから一日二日して自分はその三人の病症を看護婦か  
ら確めた。一人は食道癌であった。一人は胃癌であった、残る一人は胃潰瘍であった。み  
んな長くは持たない人ばかりだそうですと看護婦は彼らの運命を一纏めに予言した。

**8** 自分は縁側に置いたベゴニアの小さな花を見暮らした。実は菊を買うはずのところを、植  
木屋が十六貫だと云うので、五貫に負けると値切っても相談にならなかったので、帰りに、  
じゃ六貫やるから負けろと云ってもやっぱり負けなかった、今年は水で菊が高いのだと説  
明した、ベゴニアを持って来た人の話を思い出して、賑やかな通りの縁日の夜景を頭の中に  
描きなどして見た。

**9** やがて食道癌の男が退院した。胃癌の人は死ぬのは諦めさえすれば何でもないと云って  
美しく死んだ。潰瘍の人はだんだん悪くなった。夜中に眼を覚すと、時々東のはずれで、付  
添のものが氷を砕く音がした。その音がやむと同時に病人は死んだ。自分は日記に書き込ん  
だ。――「三人のうち二人死んで自分だけ残ったから、死んだ人に対して残っているのが気  
の毒のような気がする。」 **(b)** あゝ病人は嘔気があって、向うの端からこっちの果まで響くよ  
うな声を出して始終げえげえ吐いていたが、この二、三日それがびたりと聞えなくなったの  
で、だいぶ落ちついてまあ結構だと思ったら、実は疲労の極声を出す元気を失ったのだと  
知れた。」

**10** その後患者は入れ代り立ち代り入ったり入ったりした。自分の病気は日を積むにしたがっ  
てしだいに快方に向った。しまいには上草履を穿いて広い廊下をあちこち散歩し始めた。  
その時ふとした事から、偶然ある付添の看護婦と口を利くようになった。暖かい日の昼過ぎ  
食後の運動がてら水仙の水を変えてやろうと思つて洗面所へ出て、水道の栓をねじってい  
ると、その看護婦が受持の部屋の **チヤキ** を洗いに来て、例の通り挨拶をしながら、しぼら  
く自分の手にした朱泥の鉢と、その中に盛り上げられたように膨れて見える珠根を眺め  
ていたが、やがてその眼を自分の横顔に移して、この前御入院の時よりもうずっと御顔色が  
好くなりましたねと、三カ月前の自分と今の自分を比較したような批評をした。

「この前って、あの時分君もやはり付添でここに来ていたのかい」

「ええつい御隣でした。しばらく○○さんの所におりましたが御存じはなかったかも知れません」

[11]○○さんと云うと例の変な音をさせた方の東隣である。自分は看護婦を見て、これがあの時、夜中に呼ばれると、「はい」という優しい返事をして起き上った女かと思うと、少し驚かずにはいられなかった。B、その頃自分の神経をあのくらい刺激した音の原因については別に聞く気も起らなかった。で、ああそうかと云ったなり朱泥の鉢を拭いていた。すると女が突然少し改まった調子でこんな事を云った。

「あの頃あなたの御部屋で時々変な音が致しましたが……」

[12]自分是不意に<sup>オ</sup>逆襲を受けた人のように、看護婦を見た。看護婦は続けて云った。

「毎朝六時頃になるときつとするように思いましたが」

「うん、あれか」と自分は思い出したようについ大きな声を出した。「あれはね、自働革砥《オートストロップ》の音だ。毎朝、髭<sup>ひげ</sup>を剃<sup>そ</sup>るんでね、安全髮剃<sup>かみそり</sup>を革砥<sup>かわど</sup>へかけて磨ぐのだよ。今でもやってる。嘘だと思うなら来て御覧」

[13]看護婦はただへええと云った。だんだん聞いて見ると、○○さんと云う患者は、ひどくその革砥の音を気にして、あれは何の音だ何の音だと看護婦に質問したのだそうである。看護婦がどうも分らないと答えると、隣の人はだいぶん快いので朝起きるすぐと、運動をする。その器械の音なんじゃないか羨ましいなと<sup>(5)</sup>ナンヘンも繰り返したと云う話である。

「そりゃ好いが御前の方の音は何だい」

「御前の方の音って？」

「そらよく大根をおろすような妙な音がしたじゃないか」

「ええあれですか。あれは胡瓜を擦ったんです。患者さんが足が熱<sup>ほて</sup>って仕方がない、胡瓜の汁で冷してくれとおっしゃるもんですから私が始終擦って上げました」

「じゃやっぱり大根おろしの音なんだね」

「ええ」

「そうかそれでようやく分った。——いったい○○さんの病気は何だい」

「直腸癌です」

「じゃとてもむずかしいんだね」

「ええもうとうに。ここを退院なさると直でした、御亡くなりになったのは」

14 自分は默然<sup>もくねん</sup>としてわが部屋に帰った。そうして胡瓜の音で人を焦らして死んだ男と、革砥の音を羨ましがらせて快くなった人との相違を心の中で思い比べた。

〔夏目漱石全集 10〕「筑摩書房」による。ただし、出題に際して

表記・表現を一部変更した部分がある

問一 文中の(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 文中のア、オの読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄 A・B に入る接続詞の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① A むしろ B やがて      ② A そのうち B けれども  
③ A やがて B それから      ④ A ただ B しかし

問四 文中の5段目(a)の「殊勝」とは、どういう意味か、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 変わっていて珍しいさま  
② 控えめで、心がけや行いが感心なさま  
③ 勇ましく、勢いがあるさま  
④ 立派で見事なさま

問五 文中の7段目(b)の「あの病人」とは、誰だったのか本文中から抜き出しなさい。

問六 末文において筆者が、「胡瓜の音で人を焦らして死んだ男」と「革砥の音を羨ましがらせて快くなった人」の二人を対比して述べているねらいとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 日常の音には人の生死を左右するほどの力があることを示すため  
② 音の種類によって人の運命が決まることを強調するため  
③ 同じような音でも、人によって受け取る結果が大きく異なることを示すため  
④ 不快な音を避ける生活の大切さを訴えるため

問七

次の文のうち、本文の内容に最もよく合致するものを一つ選びなさい。

- ① 筆者は、音に対する人間の感覚は常に正確であると述べている。
- ② 筆者は、変な音は必ず外部から発生すると考えている。
- ③ 筆者は、日常のささいな音から人の心理の動きを考察している。
- ④ 筆者は、音の現象を科学的に解明することを目的としている。

問八 筆者が「変な音」という表現を用いている理由として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 音の正体が明確で説明が容易だから
- ② 音そのものよりも、それを感じ取る人の心に注目しているから
- ③ 読者に恐怖心を与えるため
- ④ 実際に危険な出来事が起こったことを伝えるため

問九 この随筆では、筆者は「具体例」「説明(考察)」「まとめる」といった要素を用いて文章を展開している。これらの語句をすべて用いて、本文の構成を説明しなさい。

第二問 敬語に関する問題である。次の状況から適切なものを一つ選びなさい。

(1) 患者(高齢者)に検査前の説明をするとき

- ① ちよつと待っててください。
- ② こちらで少しお待ちください。
- ③ 今から検査するからね。

(2) 会社の上司からの指示に対する返事

- ① 分かりました。
- ② 了解しました。
- ③ 承知しました。

(3) 利用者の家族に説明するために待たせる際の言葉

- ① ただいま職員が対応しております。
- ② 今、担当がやっています。
- ③ 少し待ってもらえますか。

(4) 先生に質問してもよいか尋ねるときの言葉

- ① 今、質問してもよろしいでしょうか。
- ② 今、質問していいですか。
- ③ 今、聞いてもいいですか。

(5) 依頼を丁寧に断るときの言葉

- ① 駄目です。お引き受けできません。
- ② 今回は難しいです。
- ③ 申し訳ありませんが、今回はお引き受けできません。

(6) 目上の人に資料を渡すときの言葉

- ① こちらをご覧ください。
- ② これ、読んでください。
- ③ こちらを見てください。

第三問 次の四字熟語の読みをひらがなで書き、意味を次の選択肢から一つ選びなさい。

(1) 無念無想

- ① 自分の考えを強く主張し続けること
- ② 念入りに計画を立て、慎重に行動すること
- ③ 後悔や未練が強く、気持ちが悪く乱れている状態
- ④ 無我の境地に入り、何も考えずに平静な状態であること

(2) 首尾一貫

- ① 最初から最後まで主張や方針が一貫していること
- ② 途中で失敗し、計画が崩れること
- ③ 結果だけを重視し、過程を問わないこと
- ④ 状況に応じて考えや行動を変えること

(3) 質実剛健

- ① 見た目が華やかで、ぜいたくな生活を送ること
- ② 感情表現が豊かで、社交的な性格であること
- ③ 堅実で飾り気のなく、強くたくましいさま
- ④ 物事を柔軟に考え、妥協する姿勢を持つこと

(4) 一言一句

- ① 大切な言葉だけを選んで伝えること
- ② 思いついたことを自由に話すこと
- ③ 一つ一つの言葉のこと、ほんのひとこと
- ④ ほんの一言だけを強調すること

第四問 次のカタカナに当てはまる漢字を書きなさい。

- ① カラクチの批評が注目される。
- ② 米ぬかから油をチユウシユツする。
- ③ 電車からバスに乗りカえる。
- ④ 陽気にサソわれて外に出た。
- ⑤ ダイヤモンドのユビワを贈られた。
- ⑥ 送料をフクんだ金額を払う。
- ⑦ 鉄には様々なヨウトがある。
- ⑧ レンタル用品のチヨウカ料金を支払う。
- ⑨ 留学のヒツジユ品をそろえる。
- ⑩ 泉からスんだ冷たい水がわく。

# 令和八年度一般選抜A日程国語 解答

## 第一問 計50点

問一 各2点 (1) 暑 (2) 遠慮 (3) 終日 (4) 茶器 (5) 何遍

問二 各1点 (ア) むろん (イ) こまく (ウ) こうき (エ) はもん (オ) ギヤクシユウ

問三 3点 (2)

問四 3点 (2)

問五 5点 胃 潰瘍 の人 問六 3点 (3) 問七 3点 (3) 問八 3点 (2)

問九 15点  
 身近な出来事を**具体例**として示し、そこに**説明**(**考察**)を加えたうえで、最後に全体を**まとめ**る構成で書いている。

## 第二問 各3点 計18点

(1) (2) (2) (3) (3) (1) (4) (1) (5) (3) (6) (1)

## 第三問 読み 各2点 意味 各1点 計12点

(1) むねんむそう (2) しゅびいつかん (読み) (意味) (3) しつじつごうけん (3) (4) いちごんいっく (4) (1) (読み) (意味)

## 第四問 各2点 計20点

⑥ 含	① 辛口
⑦ 用途	② 抽出
⑧ 超過	③ 換
⑨ 必需	④ 誘
⑩ 澄	⑤ 指輪

評点

## 一般選抜 A 日程 国語問題の出題意図について

### 第一問（現代文・読解）

出典：夏目漱石「変な音」

本文は日常の小さな出来事を通して人間の心理や感じ方の違いを描いた文章であり、受験生の読解力・思考力・文章構造理解を総合的に測ることができるためである。

- 問一および問二：常用漢字範囲内での漢字問題で、仮名を漢字に直す設問や、語句の読み仮名を通じて、基本的な語彙力・表記力を評価する。
- 問三：接続詞の理解などを通じて、基本的な文法力を評価する。
- 問四：文脈から語義を判断する力や語彙の意味理解を測る。
- 問五：文脈参照して情報の照合能力を測る。
- 問六：文章全体の構成を踏まえて作者の意図を特定できる読解力を測る。
- 問七：文章全体理解と論旨把握を測る。
- 問八：作品のテーマや作者の視点を読み取れるかを測る。
- 問九：論理構造を言語化できるかを測る。

### 第二問（敬語表現）

出題の意図：適切な敬語運用能力の評価

尊敬語の適切な使用に関する問題を通じて、場面や相手に応じた敬語の使い分けができるかを確認する。

### 第三問（四字熟語）

出題の意図：語彙力と意味理解の評価

日常語彙に加え、文学・教養に基づく四字熟語の読みと意味の理解を問うことで、語彙の広がりや常識的知識の深さを測定する。

### 第四問（語句の漢字表記）

出題の意図：漢字の運用力の確認

基本的な語彙を漢字で正しく表記する能力を問う。日常的・実用的な語句を中心に出题し、常用漢字への理解度を確認する。

## 令和8年度 一般選抜A日程数学 I 問題

問題1 次の計算をなさい。

$$(1) \quad \frac{1}{3} + \frac{1}{8}$$

$$(2) \quad 7 - (-5) + (-4)$$

$$(3) \quad 0.232 + 0.991 - 0.881$$

$$(4) \quad 3\sqrt{3} (\sqrt{18} - \sqrt{48})$$

$$(5) \quad \sin 45^\circ + \cos 30^\circ$$

問題2 次の方程式を解きなさい。

$$(1) \quad 3(X - 2) - 2(-X + 6) = 7$$

$$(2) \quad \frac{X - 2}{6} = \frac{3}{4}X - \frac{3}{2}$$

$$(3) \quad \begin{cases} \frac{2}{3}X - \frac{1}{4}Y = \frac{7}{12} \\ 5X - 3Y = 10 \end{cases}$$

$$(4) \quad X^2 + 2X - 8 = 0$$

$$(5) \quad X^2 + 5X - 2 = 0$$

問題3 次の不等式と連立不等式を解きなさい。

(1)  $3X + 5 > -X + 2$

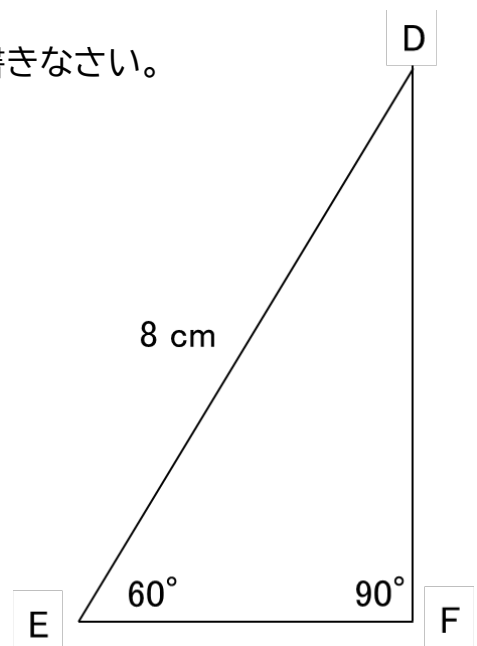
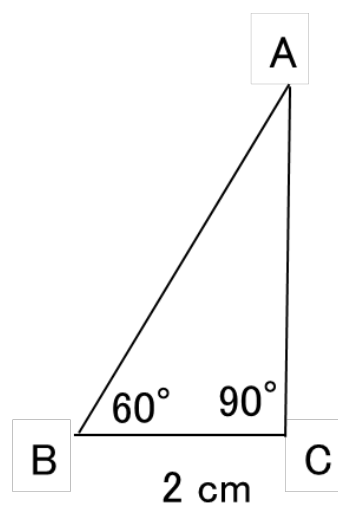
(2) 
$$\begin{cases} 3(X-4) < X-3 \\ 6X-2(X+3) < 8 \end{cases}$$

問題4 2次関数  $Y = (X-1)^2 - 2$  のグラフについて、次の問いに答えなさい。

- (1) 頂点の座標を求めなさい。
- (2) 軸の方程式を求めなさい。
- (3) y軸との交点の座標を求めなさい。
- (4) グラフを書きなさい。

問題5 左の三角形ABCと右の三角形DEFが相似である場合、Bが60度、Cが90度、BCが2cmの時の次の問いに答えなさい。

- (1) ACの長さを求めなさい。
- (2) 三角形DEFの面積を求めなさい。
- (3) この場合の相似の条件を書きなさい。
- (4) それ以外の三角形の相似の条件を2つ書きなさい。



問題6  $U = \{x \mid x \text{ は一桁の自然数}\}$  を全体集合とする。

$U$  の部分集合  $A = \{2, 3, 4, 8\}$   $B = \{4, 6, 7\}$   $C = \{4, 7, 9\}$  について、次の集合を求めなさい。

(1)  $\overline{A \cup B}$                       (2)  $\overline{A} \cup \overline{B}$                       (3)  $\overline{B} \cap C$

(4)  $A \cap B \cap C$                       (5)  $A \cup B \cup C$

問題7 次のデータについて、最小値、最大値、中央値、第1四分位数、第3四分位数、範囲、四分位範囲を求めて、箱ひげ図を作成しなさい。

4,5,6,6,8,9,10,10,7,7,7,8,2,2,3,4

令和8年度 一般選抜 A 日程 数学 I 解答・出題の意図

問題1 解答欄 25点 (5点×5)

(1)	(2)	(3)	(4)
$\frac{11}{24}$	8	0.342	$9\sqrt{6} - 36$
(5)			
$\frac{\sqrt{2} + \sqrt{3}}{2}$			

出題の意図：記述式、分数や小数や平方根や三角関数の計算力を問う。

問題2 解答欄 25点 (5点×5)

(1)	(2)	(3)	
$x = 5$	$x = 2$	$x = -1$	$y = -5$
(4)	(5)		
$x = -4, 2$	$x = \frac{-5 \pm \sqrt{33}}{2}$		

出題の意図：記述式、一元一次、二元一次、一元二次方程式を解く計算力を問う。

問題3 解答欄 10点 (5点×2)

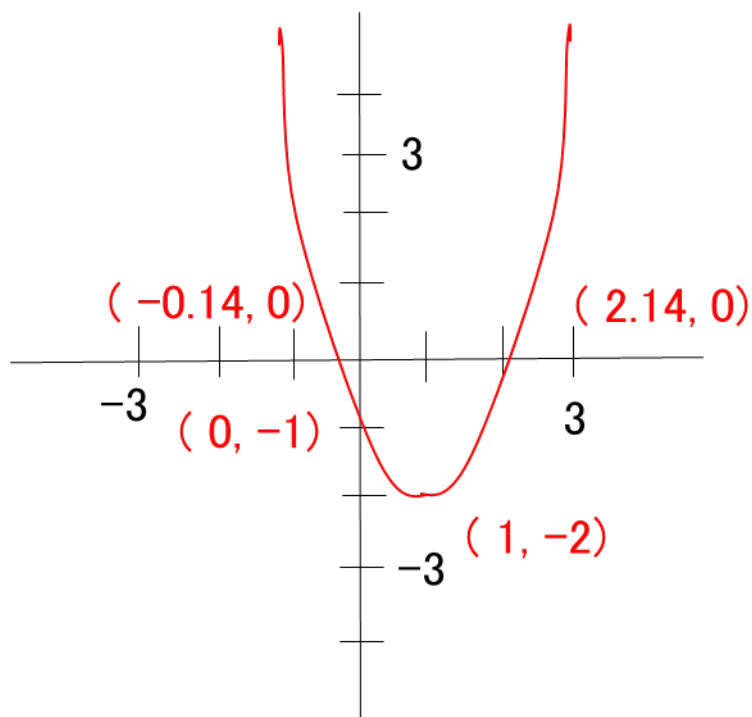
(1)	(2)
$x > -\frac{3}{4}$	$x < \frac{7}{2}$

出題の意図：記述式、不等式を理解して解く能力を問う。

問題4 解答欄 10点 ((1) ~ (3) 2点×3, (4) 4点)

(1)	(2)	(3)
(1, -2)	$X = 1$	(0, -1)

(4)



出題の意図：記述式、二次関数のグラフに必要な座標を求めグラフを書く能力を問う。

問題5 解答欄 10点 (2点×3+4点×1)

(1)	(2)
$2\sqrt{3} \text{ cm}$	$8\sqrt{3} \text{ cm}^2$
(3)	
2組の角がそれぞれ等しい	
(4)	
3組の辺の比が、すべて等しい	
2組の辺の比とその間の角が、それぞれ等しい	

出題の意図：記述式、三角形の相似に関する理解力を問う。

問題6 解答欄 10点 (2点×5)

(1)	(2)
{1, 5, 9}	{1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9}
(3)	(4)
{9}	{4}
(5)	
{2, 3, 4, 6, 7, 8, 9}	

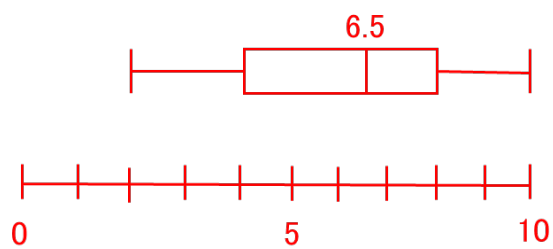
出題の意図：記述式、集合に関する理解力を問う。

問題7 解答欄 10点 (1点×7 + 3点×1)

最小値	2
最大値	10
中央値	6.5
第1四分位数	4
第3四分位数	8
範囲	8
四分位範囲	4

箱ひげ図

回答例：



出題の意図：記述式、統計、箱ひげ図に必要な知識と、図を書く能力を問う。